

第2回学校給食運営協議会資料

令和4年11月18日

1 開会

2 会長あいさつ

3 会議の公開について

三田市情報公開条例（平成15年3月31日条例第2号）

(会議の公開)

第30条 実施機関に置く附属機関及びこれに類するものは、その会議(法令等の規定により公開することができないとされている会議を除く。)を公開するものとする。ただし、次の各号に掲げる場合であつて、当該会議で非公開を決定したときは、この限りでない。

- (1) 第7条各号に規定する非公開情報が含まれる事項について審議、審査、調査等を行う会議を開催する場合
- (2) 会議を公開することにより、当該会議の適正な運営に著しい支障が生ずると認められる場合

基本的に会議は公開ですが、公開の可否については毎回の会議冒頭に確認します。会議の開催日時、場所、及び議事概要等は市ホームページで公表します。

本日の会議 公 開 ・ 非 公 開

4 報告事項

(1) アンケート調査の結果

別添のとおり

(2) 試食会の報告

開催日 令和4年10月13日(木) 11:00～12:00 (2名は別時間)

参加者 委員 6人 事務局 2人 計 8人

給食センター紹介スライド視聴

小学校給食風景ビデオ（搬入～配膳～下膳～搬出）視聴

(3) 追加資料

① 給食費総額の内訳

		令和3年度決算額	令和2年度決算額		
給食費歳入額		443,197,962	412,318,393		
歳出額	食材費(※1)	420,465,466	404,451,970		
	燃料代等	都市ガス代	9,579,141	7,735,101	(ゆりのきのみ)
		LPガス代	342,364	262,911	(清水山のみ)
		重油代	8,837,400	6,293,100	(清水山のみ)
	水道代(※2)	6,860,904	5,960,044		
	電気代(※3)	0	0		
	小計	25,619,809	20,251,156		
計	446,085,275	424,703,126			
差額(※4)		▲ 2,887,313	▲ 12,384,733		

※1 主食・牛乳代含む

※2 上下水道料金の1/4（残りの3/4は市が負担）

※3 電気代は市が全額負担

※4 歳入調定額と歳出額の差

② 県下他市の給食費比較

令和4年4月1日現在

小学校高学年				
1食あたり給食費	直近改定年月	賄材料費以外の負担	光熱水費等	無償化
三田市	238円	H26/4	あり	あり

中学校				
1食あたり給食費	直近改定年月	賄材料費以外の負担	光熱水費等	無償化
	275円	H26/4	あり	あり

1	270円	R2/4	あり	なし	
2	260円	H29/4	あり	あり	
3	260円	H26/4	あり	なし	
4	260円	H29/4	なし	なし	
5	260円	H31/4	なし	なし	
6	260円	H27/4	なし	なし	
7	258円	H31/4	なし	なし	
8	258円	R3/4	なし	なし	
9	258円	R2/4	なし	なし	○
10	255円	R2/4	なし	なし	○
11	255円	R3/4	なし	なし	○
12	254円	H28/4	あり	なし	
13	250円	H27/4	あり	あり	
14	250円	H21/4	あり	あり	
15	250円	H28/4	なし	なし	
16	250円	H29/4	なし	なし	
17	245円	H28/4	なし	なし	
18	243円	H31/4	なし	なし	
19	242円	R3/4	なし	なし	
20	240円	H30/4	あり	あり	
21	240円	H31/4	あり	なし	
22	240円	H26/4	なし	なし	○
23	234円	H27/9	なし	なし	
24	230円	H26/4	あり	あり	
25	227円	H26/4	なし	なし	
26	220円	H31/4	なし	なし	
27	220円	H19/4	なし	なし	
28	210円	H8	なし	なし	
246.00円		阪神間平均			
246.39円		県下市平均			
270円		最高額(1食)			
210円		最低額(1食)			

1	340円	H29/4	なし	なし	
2	315円	R3/4	なし	なし	○
3	313円	R2/9	なし	なし	
4	310円	H31/4	あり	なし	
5	308円	H28/4	なし	なし	○
6	300円	R2/4	あり	なし	
7	297円	H27/4	あり	あり	
8	295円	H26/4	あり	なし	
9	292円	R3/4	なし	なし	
10	291円	R2/4	なし	なし	○
11	290円	H28/4	なし	なし	
12	290円	H31/4	なし	なし	
13	290円	R4/9	なし	なし	
14	290円	R3/4	なし	なし	
15	280円	H21/4	あり	あり	
16	280円	H29/4	なし	なし	
17	280円	H27/4	なし	なし	
18	280円	R2/4	なし	なし	○
19	275円	H31/4	なし	なし	
20	275円	H28/4	なし	なし	
21	270円	H26/4	あり	あり	
22	270円	H26/4	なし	なし	○
23	265円	H27/9	なし	なし	
24	260円	H30/4	あり	あり	
25	258円	H26/4	なし	なし	
26	240円	H31/4	なし	なし	
27	240円	H19/4	なし	なし	
28	240円	H8	なし	なし	
298.43円		阪神間平均			
283.36円		県下市平均			
340円		最高額(1食)			
240円		最低額(1食)			

※ 阪神神戸の各市及び加古川市は、9月1日現在

※ 上記以外の各市は、R4.4調査に基づきます。

※ 徴収額は減免等により異なる場合があります。

※ 各平均は三田市を除いた平均です。

※ 第1回会議以降に数値が判明した市がありましたので平均が変わっています。

※ 小学校高学年・中学校ごとに給食費の高い順に並び替えていますので、校種ごとの番号が同一の市とは限りません。

③ 学校給食費の年次推移（各年度5月1日現在）

区分	小学校			中学校
	低学年	中学年	高学年	
H26 1食単価	237.34	237.25	237.31	273.20
R3 1食単価	250.38			298.88

※ 兵庫県教育委員会発行「学校給食の現況」より

※ 学校加重平均 単位：円

④ アレルギー対応状況 令和4年5月1日現在（単位：人）

	中学校	小学校	特別支援	計
弁当を自宅から持参させる （一部弁当も含む）	44	138	3	185

※ 学校給食基本調査（令和4年5月1日現在）三田市回答より

5 協議事項

(1)「三田市の目指す学校給食のあり方」について

① 学校給食に求められるイメージ

アンケートの報告内容を元に委員の方のイメージを共有したいと思います。

イメージのポイント

- ・ 食材について
- ・ 献立について
- ・ 量について
- ・ 給食の楽しみについて
- ・ 質について
- ・ その他

（アンケート結果の参照設問 Q2～Q10）

(2)「給食内容の充実」について

① 栄養価の確保・献立・食材等

参考資料 第1回学校給食運営協議会資料 3頁

アンケートの意見より

栄養価の不足への懸念

タンパク質の確保（実質的には足りているが、肉類の減少への懸念）

（アンケート結果の参照設問 Q5～Q8、Q11～15）

② 地産地消の推進

JA兵庫六甲学校給食部会の取り組み状況

参考資料 第1回学校給食運営協議会資料 11～12頁

(アンケート結果の参照設問 Q2～Q10)

<地場産品への市町の助成等の状況：明石市調査より>

三田市	地場野菜の使用に際し、市場平均価格の1.2倍とし、生産納品等にかかる負担分の0.2については子育て応援基金（ふるさと納税）より補助
芦屋市	地産地消推進のため地産地消週間（5日間）を設け、小学校（8校）、中学校（3校）に補助
豊岡市	市内産減農薬米使用に係る差額を市が補填している。
加古川市	志方健やか米及び加古川パスタを使用した際の市負担金あり。金額は選定物資との差額。
西脇市	地産地消推進助成（黒田庄和牛、金ごま購入費）
三木市	地産地消調整費
丹波篠山市	米粉パン補助・特産品補助
養父市	本市在住の児童生徒の学校給食費を補助することにより、保護者の負担軽減を図り、子育てを支援する。
丹波市	丹波市の特産品である大納言小豆を、農業振興の一環として市費にて学校給食に提供。
南あわじ市	地場産農水産物の利用拡大のため、南あわじ市学校給食食材利用拡大推進協議会より補助。 今年度はポストコロナに対応した事業として、学校給食支援事業として、地元産の水産物の給食食材の提供。
淡路市	食育の観点より、地産地消等の推進を目的として、淡路市産の農水産物等を使用した特別献立（コロナに負けるな給食応援事業）を提供するにあたり、1食あたり小・中は500円を上限額として、それぞれの給食費を上回る額を市から補助（年間3回実施（学期に1回））
宍粟市	「地産地消の推進」「内水面資源消費拡大」を給食食材にも採り入れており、地元食材並びに市内で養殖されている鮎・アマゴ、肥育されている和牛及び狩猟捕獲された猪・鹿等を活用することにより、その食材費を予算の範囲内で市費から支出している。
加東市	平成25年度から「楽しみのある学校給食特別メニュー」の実施費用を市負担 平成30年9月から「学校給食充実材料費」として食物アレルギー代替食材の拡充・栄養価確保・地産地消と食育の推進を目的として支援。
明石市	食育や地産地消推進等の推進を目的として、明石市産の水産物等を使用した特別献立を提供するにあたり、1食あたり小・養は500円、中は600円を上限額として、それぞれの給食費を上回る額を市から補助（年間2回ずつ実施予定。）
加西市	JA直売所を通じて市内産農作物を使用する際は、販売価格と市場価格（入札額）との差額を市農政担当部局が市費で補填。
神戸市	令和2年4月から、中学校給食費については半額助成実施。
朝来市	子育て支援施策として、児童等と教職員の給食費の差額を市費負担としている。

兵庫県教育委員会発行「学校給食の現況」（抄）

令和3年度における地元産米を使用している市町（34市町）

神戸市、三田市、猪名川町、丹波篠山市、丹波市、明石市、加古川市、高砂市、稲美町、西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町、姫路市、神河町、市川町、福崎町、相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、太子町、上郡町、佐用町、豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町、洲本市、淡路市、南あわじ市

※ 通年で使用されていない場合も含む。

学校給食における地場産物活用状況（令和2年度実績）

平成28年3月に策定された国の第3次食育推進基本計画では、学校給食における地場産物を使用する割合（食材数ベース）を令和2年度までに30%以上とすることを目指していたが、第4次の計画においては、都道府県単位での地場産物を使用する割合について、現場の努力を適切に反映するとともに、地域への貢献等の観点から、算出方法を食材数ベースから金額ベースに見直し、その割合を現状値（令和元年度）から維持・向上した都道府県の割合を90%以上とする目標値に変更された。

また、国産食材を使用する割合についても、地場産物と同様に金額ベースに変更され、現状値（令和元年度）から維持・向上した都道府県の割合を90%以上とする目標値に変更された。さらに、子供たちへの教育的な観点から、栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組を、令和元年度の月9.1回から、令和7年度までに月12回以上とする目標値が加えられた。本県では、「食育推進計画（第3次）」（平成29年3月、兵庫県）において、学校給食での県産品使用割合（食材ベース）を令和3年度までに35%以上とすることを目標としているが、令和2年度実績は29.1%で、目標を下回っている。

〈学校給食における地場産物活用の意義〉

（「第4次食育推進基本計画」より抜粋）

学校給食に地場産物を使用し、食に関する指導の「生きた教材」として活用することは、地域の自然や文化、産業等に関する理解を深めるとともに、生産者の努力や、食に関する感謝の念を育む上で重要である。また、学校給食における地場産物の活用は、地産地消の有効な手段であり、地場産物の消費による食料の輸送に伴う環境負荷の低減や地域の活性化は、持続可能な食の実現につながる。さらに、地域の関係者の協力の下、未来を担う子どもたちが持続可能な食の実現にもつながる。このため、子供たちへの教育的な観点から、栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の取組を増やすことを目標とするとともに、引き続き、生産者や学校給食関係者の努力が適切に反映される形で、学校給食において地場産物を使用する割合を増やすことを目指す。

学校給食における地場産物活用状況

（調査期間 令和2年6月15～19日、11月16～20日 食材品数比率）

単位：%

地区	県内産		国内産	輸入
		うち地域産		
神戸	26.8	8.9	41.6	31.6
阪神	21.0	1.8	65.6	13.5
播磨東	30.1	11.7	48.8	21.1
播磨西	33.4	16.1	53.2	13.5
但馬	32.2	19.6	52.1	15.7
丹波	24.3	14.4	64.6	11.1
淡路	37.8	18.1	46.4	15.8
県全体	29.1	11.8	54.3	16.6
三田市	22.8	12.5	60.2	17.0

三田市	地域産の米「どんとこい」を使用。月に一度の「和食の日」に牛乳のかわりに「母子茶」を提供。
神戸市	こうべ旬彩（神戸市内で生産される人と環境に配慮して栽培された野菜）や地域産野菜・米（キヌムスメ）を使用。 地域産のキャベツを使用したミンチカツや、じゃがいもの入ったコロッケを使用。 地域産の規格外の野菜を活用した加工品の開発をし、給食に提供（神戸たまねぎミンチカツ）。 地域産の果物（いちじく・ぶどう）を用いたデザート・ジャムなどに加工し、給食に提供。
芦屋市	学校独自に「地場産ウィーク」を設定し、地元の農家の野菜や県産の野菜を購入し、地場産物の使用率を高めてPRする取組を行った。
宝塚市	市北部（西谷地区）で栽培している黒大豆枝豆を給食で提供し、生産農家によるさや取り体験出前授業を実施している。
川西市	地元JAと協力し、いちじくやレモンなどの特産物を、季節を限定して給食に使用。地域産のじゃがいも、たまねぎ、里芋を給食で使用。
猪名川町	地域産の「朝どりとうもろこし」を提供。
明石市	地域産または明石近郊産の米を使用。
加古川市	加古川市を中心に栽培されている日本初の国産品種のデュラム小麦「セトデュール」で作られた「加古川パスタ」を世界パスタデー（10月25日）に合わせて提供。このことについて、家庭配布用献立表、給食だより、市の広報などで広く周知を図った。
西脇市	毎月、地元野菜グループの例会を開催し、優先的にグループから納品計画を確認している。地域産の米を使用している。
三木市	地域産の米と大豆を使用した味噌を給食で使用。
小野市	地域産のいちじくを使ったゼリーや、地域産のじゃがいも、たまねぎ、さつま芋を使用したコロッケ、地域産キャベツを使用した鶏つくねを提供。毎月19日（食育の日）は地域産の食材を使った和食を提供。
加西市	JA等と連携し、地域産のじゃがいも、玉ねぎを使用したコロッケ、特産の「ゴールデンベリーA」を使った。 ぶどうゼリー、地域産のかぼちゃ（ダークホース）、里芋、トマトピューレを給食に使用している。 神戸大学農場から柿、農業高等学校からさつまいもと玉ねぎを購入し、使用。
加東市	地域産の果物や野菜を使用した、桃ゼリー、いちごジャム、ぶどうジャム、コロッケといった加工品や、「加東市産もち麦ご飯」「やしろ茶入りの冷凍うどん」、やしろ茶の粉末をタレに混ぜて使用している。
神河町	地域産の米粉を使用した「米粉パン」を月1回実施。地域産の鹿肉、ゆず、ゆず果汁を使用。
相生市	地域産の大豆を使用した豆腐を学校給食で活用。
赤穂市	赤穂市産の食材のみを使用した「赤穂産デー」を年2回、兵庫県産の食材のみを使用した「地場産デー」を年3回実施。地域産の米粉を使用した「米粉パン」を提供。地域産の大豆を使用した味噌を給食で提供。 兵庫県内で捕獲、西播磨地域で処理された鹿肉を使用した「シカ肉コロッケ」を年1回提供。
佐用町	地域産の味噌、しょう油、もち大豆の加工品（水煮、豆乳）、「ひまわりうどん」、「ひまわりドレッシング」を使用している。 地域産の玉ねぎ、キャベツ、きゅうり、白菜、なす、トマト、ぶどう、くり、とうもろこし、自然薯を給食で使用。地域産の米を使用。

豊岡市	地域産減農薬のコウノトリ育む農法による米を使用。生産者と連携し、玉ねぎやじゃがいもは、収穫後に雪室に保管されたものを秋以降も使用している。地域の固有種である小野芋、八代オクラを使用。月1回程度、ふるさと給食として、豊岡市または但馬の魚（ニギス、イカ、ハタハタなど）や地元の野菜を中心とした献立を実施。
香美町	ふるさと給食推進員が町内の食材を学校給食で使用できるようにコーディネートをしている。「魚食普及事業」「地元産但馬牛肉消費事業」により、町内産食材活用のための予算を計上している。味噌はすべて地域産を使用
新温泉町	地元漁協から、ハタハタ・セコガニ・アカイカの無償提供があり、給食で使用。
丹波篠山市	地元野菜納入業者と年2回「地元野菜調整会議」として意見交換を実施。地域産の米「コシヒカリ」を米飯及びパンに使用。
南あわじ市	地域の水産物（たこ、ハモ、ぶり、サクラマス、さわら）を使用。
淡路市	地域産の農水産物等を使用した特別献立「コロナに負けるな給食応援事業」を提供するにあたり、1食あたり500円を上限額として、給食費を上回る額を補助している。 玉ねぎ、米、野菜や果物の一部については市内の生産者から直接購入している。 JAより、玉ねぎ（6月）、米（10月）の提供がある。

③ 安全安心な食材の活用

ア 添加物の使用

加工品においては、可能な限り使用していないものを選定し、給食センターでの調理においては使用していません。

イ 遺伝子組み換え食品

学校給食では、使用していません。

ウ 無農薬・減農薬等

三田産農産物

JA学校給食部会加入の生産者が育てた野菜を使用

学校給食部会の加入には、エコファーマーの認証を受けた人となっています。

有機JAS及び特別栽培農産物について

ひょうご安心ブランド

オーガニック食材の使用

言葉の説明

【有機JAS】

化学合成された肥料や農薬などを使用しないで作られた農産物などについて、JAS法に基づき第三者機関が認証した事業者に「有機JASマーク」の使用を認める制度

【ひょうご安心ブランド】

兵庫県が認証した食品ブランドであり、農産物における出荷記録などの整備や化学肥料・農薬の5割以上の低減、残留農薬が国基準値の10分の1であるなどの基準をクリアした農産物のこと

6 その他